

---

# ネギま！～時の欠片～

レイ・クロフォード

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ネギま！〜時の欠片〜

### 【Nコード】

N8789Y

### 【作者名】

レイ・クロフォード

### 【あらすじ】

オリジナルキャラが多数出現するネギま！の世界の物語です。

オリジナルキャラがチート気味になる事や本来と違うカップリングになる場合があります。

欠片が生まれた日（前書き）

記念すべき二作目……？

いいえ、作成日なら一作目です。

## 欠片が生まれた日

今より遙か昔のある時……

ある場所にて……

「封印柱の祈り」

カオス

「…レイ。本当に宜しいのですか？」

レイ

「ああ、まあ世界は見るよ。魔力の欠片から我が分身を作るからね」

カイ

「だが…いや、お前がその責任を負う必要は…  
俺にも可能じゃ…」

レイ

「いんや、これは私が負うべき…それに確かにこの責任はカイでも、私の能力に似た『静寂』のカイでも可能だ…。だが私の『時間』の方がより確実だからな…」

カオス

「ラプラス、現時刻からレイが再度現れるのに要する時間は？」

ラプラス

「そうですね…」

ざっと見て300年後でしょうか。」

カオス

「レイ、本当は私が負うべき責を……」

レイ

「いんや、だからいいってさ。」

…じゃあ、こうしよう！

我が魔力の欠片で生まれる我が分身。

勿論の事、その分身レイには死染蝶はいないし、多分記憶も無いと思うんだ。

だから、誰でもいい。我が分身体を守ってほしい。

まあどの魔力の欠片が基礎になるか不安だが……

……カオス、魔力体についての知識は……」

カオス

「心得ておりますよ。というかその本の著者をお忘れで？」

レイ

「ははは……んじゃ、もう行くわ。

ただちよつと問題として魔力体の出現する時代と空間が現在私には把握できてないから

そこから……すまない。」

カオス

「貴方の負う責任に比べれば……。

大丈夫です、私にカイ、ラプラスと総力を上げて搜索いたします。

まあ貴方の魔力は異質ですからね。使用痕跡が分かれば捕らえます

よ。」

レイ

「んじゃ……もう時間だからな！」

こうしてレイは『滅び行く 絶望の 虚無』を封印する封印柱へ自らを封印鍵として

眠りへついた…

この封印はその存在を拘束する意味もあるが、それ以上にこの封印が解けた際に確実に滅ぼすための手段をレイが術の中で行うものである。

レイ封印から290年後ごろ……

レイが……いや、レイ（魔力体）が発見された。

ナギ

「ほー…で、出現位置が俺ん家だって？  
というか魔力で人を生成ってどんだけだよ。  
…無茶苦茶じゃないか」

カオス

「貴方ほどの無茶苦茶な方でも考えませんものね。

私もそんな応用するものに出会った事はありませんでしたよ……」

ナギ

「わかった。俺の息子もそろそろ生まれる頃だ。一緒に育ててみるぜ。」

カオス

「育てるって…貴方結局世界を飛び回るじゃないですか。」

ナギ

「だから俺の娘にでも頼むからさ。まあこっちは任せておいてくれ。」

カオス

「やれやれ…でも、なんとなく貴方にであれば任せられそつだ。よろしく願いますよ。ナギ」

ナギ

「おっ！」

それから、

さらに数年後……



メルディアナ魔法学校…

卒業式…

校長

「卒業証書授与　この七年間よくがんばってきた。だが、これからの修業が本番だ。気を抜くでないぞ。」

ネギ・スプリングフィールド君！

レイ・スプリングフィールド君！」

ネギ&レイ

「「ハイ！」」

欠片が生まれた日（後書き）

あ、途中切りで申し訳ない。直ぐに続きを投稿します。

修行の地、決定！

アーニヤ

「ネギ、レイ。何て書いてあった？私はロンドンで占い師よ。」

ネカネ

「修業の地はどこだったの？」

レイ

「今浮かび上がるところだね。」

ネギ

「お……」

アーニヤ

「どつ？」

ネギ

「え　と……日本で　先生をやること……」

レイ

「あれ?……」

ネカネ

「レイ?どうしたの?」

レイ

「どうしたも……ネギとおんなじだったからさ……修業の地」

ネギ

「同じなんだ」レイと

レイ

「みたいだね」

じゃなくて……!!

ネカネ&アーニヤ

「ええー！ー！つ！？」

ネカネ

「こ、校長！『先生』ってどーゆーことですか！？」

校長

「ほう…『先生』か…。察するに二人ともかの？」

ネカネ

「何かの間違いではないのですか？10歳で先生など無理です」

アーニヤ

「そうよ、ネギつたらただでさえ、チビでボケで…」

レイなんて鈍感よ鈍感！しかも超ド級の方向音痴！」

レイ

「（散々ないわれようだなあ…）」

しかし事実なので言い返せない

もっとも、方向音痴の方しか理解してはいないだろうが…

校長

「しかし、卒業証書にそう書いてあるのなら、決まった事じゃ。  
立派な魔法使いになるためには、頑張って修業してくるしかないの  
う」

ネカネ

「ああっ……」

くらっ

ふらつくネカネ

ネギ

「あ、お姉ちゃん」

レイ

「姉上！」

ガシッ

レイがネカネを立て直す

校長

「ふむ……安心せい。修業先の学園長はワシの友人じゃからの。  
ま、がんばりなさい」

二人

「ハイ！わかりました！」

こうしてレイとネギは遙か遠くの国

日本へと修業のため向かっていったのであった…

いざ、麻帆良学園へ！

日本の都会

ネギ

「わーすごいや……」

レイ

「僕はネギとはぐれたら迷子になる自信がある。この人の数だとね……」

ネギ

「じゃあ、離れないようにね。僕も行き先が完全に分かってるわけじゃないから……」

そして色々な人に聞きまわり、ようやく電車に乗り込んだ



ネギ

「うわー。日本人は本当に人が多いなー。それに女の人一杯だ。」

レイ「姉上の言葉が色々役立ちそうだが……ネギ。その杖の使い方はどうかとおもっ……」

ネギ

「そういつレイもやってるじゃないか。」

レイ

「ん、まあ……そ、ぎゃっ」

レイの会話の途中で電車が揺れて二人とも人ごみにつぶされる

少しして解放されると……

女の子A

「何？あの子たち」

女の子B

「外国人？クスクス」

女の子ABC

「にこっ」

と笑顔でいたが、ネギ&レイは驚いたというか綺麗な人達だなと驚いたんだろうな

女の子C

「僕たち何処行くの？」

女の子B

「ここから先は中学高校だよ？」

レイ

「あ、いえ、その……」

ネギ

「ハ……ハハ……」

レイ

「（あ、まずい……）」

ネギ

「ハックションー!!」

ぶわぁぁ……

ネギのくしゃみによりネギのもつ属性、風属性の魔力が少々もれてそこに風があふれた

ネギ

「あ………」

レイ

「遅い………」

女の子C

「な、何なの、今の？」

女の子B

「つむじ風？」

アナウンス

『次はー麻帆良学園中央駅ー』

女の子A

「あ、着くよ。」

そして

プシューー

ドアが開き、

女の子C

「じゃあね、坊や達」

女の子B

「気をつけてね」

ネギ

「え……」

女の子 A

「時間やばっ遅刻だー急げ！」

一斉に人が動く……

急げ急げ！と、そんな声も聞こえる

アナウンス

『学園生徒のみなさん。こちらは生活指導委員会です。今週は遅刻者ゼロ週間。』

始業ベルまで10分を切りました。急ぎましょう。今週遅刻した人には当委員会よりイエローカードが進呈されます。くれぐれも余裕を持った登校を……』

ネギ

「わわわ、何コレ！？凄い人！これが日本の学校か……」

レイ

「じゃなくて時間！」

ネギ

「わっ、いけない。僕も遅刻する時間だ！」

レイ

「初日から遅刻なんてしゃねにならないからね……！」

ダッ

二人して走り出す……

いざ、麻帆良学園へ！（後書き）

はい、やっとこさ来ました。えーと、次あたりにネギとアスナの邂逅といったところですかね。

## ファーストコンタクト（前書き）

ネギとアスナとレイと……主要面子の邂逅です。



## ファーストコンタクト

同時刻…

別の場所にて

女の子D

「ヤバイ、ヤバイー。今日は早く出なきゃいけなかったのに…」

叫んでるそこには女の子が二人一組で走っていた

24

女の子D

「でもさ、学園長の孫娘のアンタが、なんで新任教師達のお迎えまでやんなきゃなんないの？」

女の子E（学園長の孫娘）

「すまんすまん」

女の子D

「学園長の友人なら、そいつもじじいたちに決まってるじゃん。」

学園長の孫娘

「そうけ？今日は運命の出会いありって占いに書いてあるえ？」

女の子D

「え、マジ!？」

学園長の孫娘

「ほらココ、しかも好きな人の名前を10回言って」「ワン」と鳴くと効果ありやて…」

女の子D

「うそっ!？」

高畑先生 高畑先生

高畑先生 高畑先生

高畑先生 高畑先生

高畑先生 高畑先生

高畑先生 高畑先生

ワンッ!！」

女の子ABC

「びくうっ!！」

学園長の孫娘

「……あははは……アスナ。高畑先生のためなら何でもするわ……  
ホントにやるとは……」

女の子D<sup>アスナ</sup>

「殺すわよ」

学園長の孫娘

「えーと、次は逆立ちして開脚の上全力疾走50Mして「にゃー」と鳴く……」

アスナ

「やらねえ!!」

となんだかんだやって……

学園長の孫娘

「にしてもアスナ。足速いよね。私コレやのに……」

アスナ「悪かったわね……体力馬鹿で……」

ふわっ……

その一組に近づいた人物が二人

アスナ

「ん」

ネギ

「あのー……あなた失恋の相が出てますよ？」

レイ

「ネギ……直球は駄目だ。もう少しやんわりとだな……」

ネギ

「でも……」

アスナ

「え……な……し……しつ……って」

レイ

「ほら…な、だから……」

アスナ

「何だところんガキヤー!！」

レイ&ネギ

「うわああ!?!」

ネギ

「い、いえ、何か占いの話が出てたようだったので……つい」

レイ

「ネギそついつの好きだもんな……」

アスナ

「どどどどどついつのことよ。テキトー言つと承知しないわよ!」

ネギ

「い、いえ……」

レイ

「僕にも分かる……正直に言つとかなりドギツイ失恋の相が出てま

す……。」

アスナ

「ちょっとー」

学園長の孫娘

「なあなあ相手は子供やるー？この子たち初等部の子達と違っん？」

アスナ

「あたしはね！ガキは大ツツキライなのよ！！」

ガシッ

アスナはネギの頭を掴み持ち上げる……片手で

レイ

「おお……」

ネギ

「うひっ」

アスナ

「取り消しなさいよ……あんたもよ!!」

学園長の孫娘

「坊や達、こんな所に何しに来たん？」

「ここは麻帆良学園都市の中でも一番奥の方の女子校エリア。初等部は前の駅だよ。」

アスナ

「そう！つまり子供達は入ってきちゃいけないの。わかった？」

ネギ

「は、放してくださいー……レ、レイも助けて……」

レイ

「ん〜…自業自得？」

ネギ

「そんな淡々と……」

（あうっ、なんて乱暴な女の人なんだ。日本の女の方は親切で優しくって聞いたのに……）

学園長の孫娘

「ほなウチら用事あるから一人で帰ってな。」

アスナ

「じゃあね僕たち!!」

レイ

「い、いや、僕らは……」

そこに天? いや上から声が聞こえる

男性教師

「いやーいいんだよ!アスナ君!」

それは職員室の窓からだった

男性教師

「お久しぶりでーす!!ネギ君!!レイ君!!」



アスナ

「えっ……」

レイ&ネギ

「あ」

アスナはネギから手を離し……

アスナ

「た、高畑先生！お、おはようございます……」

学園長の孫娘

「おはよーございまーす」

ネギ

「久しぶりタカミチ！！」

レイ

「タカミチ！貴方もこの教師とは……」

アスナ

「!?!?.....し、知り合い.....!?!?」

そしてタカミチは.....

こう、告げる

高畑先生

「麻帆良学園へようこそ。いい所でしょぅ?」

「ネギ先生」

「レイ先生」。

学園長の孫娘

「え.....せ、先生?」

ネギ

「あ、ハイ。そうです。」

こほんっ

ネギは咳払いを忘れず・・

ネギ

「この度、この学校で英語の教師をやることになりました。  
ネギ・スプリングフィールドです。」

レイ「挨拶が遅れまして申し訳ございません。

この度、この学校で数学の教師をやることになりました。

レイ・スプリングフィールドと申します。よろしくおねがいます。

」

アスナ& a m p・学園長の孫娘

「「え…ええーっ」」

アスナ

「ちょ、ちょっと待ってよ。先生ってどういうこと！？あんたたち  
みたいなガキンチョが！」

学園長の孫娘

「まーまーアスナ」

すると降りてきたタカミチ

高畑先生

「いや、彼等は頭いいんだ。安心したまえ」

アスナ

「先生…そんなこと言われても…」

高畑先生

「あと、今日から僕に代わって、君たちA組の担任&副担任になってくれるそうだよ。」

アスナ

「そ、そんなあ、アタシ。こんな子達いやです。さっきだっけいきなり失恋、いや失礼な言葉を私に……」

ネギ

「いや、でもレイもいったとおり本当なんですよ」

アスナ

「本当いな!!」

レイ

「いや、でもネギの言い方にも問題がないとはいえないんだけど…」

…」

アスナ

「大体あたしはガキが嫌いなよ。あんたみたいに無神経でチビでマメでミジンコで……」

次の瞬間……

ネギにアスナは掴みかかった……

しかし、ふわりと動いたアスナの髪がネギの鼻をくすぐり……爆発

ネギのくしゃみを至近距離で受けてしまい服が飛んでしまった……

レイ

「（あはは、ネギは風属性だからまだいいけどさ……僕は無属性だから……いや、特殊だから何出るか分からないんだけどね）」

一人状況理解の上、そんな事を心で呟くレイであった。

.

## ファーストコンタクト（後書き）

貯まってる分は今日中に上げてしまおう。

ああそうだ。次から一応後書きにキャラ紹介載せようかと思いきや多いので。

ぬらりひょん？いいえ学園長です。(前書き)

学園長頭長いですよね。

ぬらりひょんで十分な気がします。



ぬらりひょん？いいえ学園長です。

その後、アスナはジャージに着替えて、  
学園長室へ

一緒にいたレイ&ネギ  
及び学園長の孫娘とともにそこにはいる

アスナ

「学園長先生！一体どーゆーことなんですか？」

学園長

「まあまあアスナちゃんや。」

そう学園長はアスナをなだめる。

学園長

「なるほど修業のために日本で学校の先生を……  
そりゃまた大変な課題をもちうたの！」

ネギ

「は、はい、よろしくお願いします。」

レイ「よろしくお願いします。」

学園長

「しかし、まずは教育実習とゆーことになるかのう。」

ネギ

「はあ」

レイ

「なるほど」

学園長

「今日から3ヶ月までじゃ……」

少し間をおいて

学園長

「ところでネギ君、レイ君、二人には彼女はおるのか？どーじゃな  
？うちの孫娘なぞ？」

このか

「ややわ、じーちゃん」

そこでこのかによるトンカチつつこみが炸裂した。

で、騒ぎ出すのはそれとは違い

アスナ

「ちよつと待つてくださってば！！  
だ、大体、子供が先生なんておかしいじゃないですか！しかもウチ  
の担任だなんて……」

しかしそれをスルーする学園長

頭からは出血しているがそれも本人はスルーしていた

学園長

「ネギ君、レイ君、この修業はおそらく大変じゃぞ？駄目だったら故郷に帰らねばならん。二度とチャンスはないがその覚悟はあるのじゃな？」

レイ&ネギ

「は、はいっ、やります。やらせてください！」

学園長

「……うむ、わかった！では今日から早速やつてもらおうかの。指導教員のしずな先生を紹介しよう。しずな君！」

すると「はい」の声と共に奥の部屋より人が現れた。

学園長

「わからないことがあったら彼女に聞くといい。」

しずな

「よろしくね」

レイ  
「よろしくお願いします」

ネギ  
「はい」

そして学園長はぶっちゃける

学園長

「そうそう、もう一つ。このか、アスナちゃん。  
しばらくはネギ君、レイ君をお前達の部屋に泊めてもらえんかの。  
まだ住むとこ決まっとらんのだよ。」

アスナ  
「げ」

ネギ  
「え」

レイ&このか  
「「「」」」

アスナ

「もっつそんな何から何まで学園長……!!」

訴えるアスナだが

このか

「かわえーよ、この子たち」

アスナ

「ガキは嫌いなんだってば!!」

学園長

「仲良くしなさい!!」

で、おとなしくなるが……

現在教室に向かって移動中。

で、ネギとアスナは並んで歩くもお互い非干渉をきめこんでるよう  
にみえる

それを後ろからついてくるのは  
このか&レイ&しずな先生

の三人

で、ネギが干渉しようと話しかけ……

アスナ

「あんだたちなんかと一緒に暮らすなんてお断りよ……寝袋でも暮  
らせばいいでしょ！」

「じゃあ私先きますから先生たち……！」

そっついこのかをつれて先に行ってしまった。

ぬらりひょん？いいえ学園長です。（後書き）

（オリキャラ紹介）

名前：レイ・スプリングフィールド

性別：男

容姿：白髪ロング、両目は黒色。ちよいと女顔。ただし、ギリギリ女子には男の子と理解していただける模様：

性格：優しい。が、女の子に間違えた男に対しては冷酷な眼差しを向ける事があるらしい。

詳細：本作の裏の主人公。で、第一話で喋っていたレイの魔力で編まれた人間。（ただし本人は理解してない。）

魔力量は下手をするとネギ以上である。

ちなみに親類への愛着は強く、血の繋がりがなくとも好意を持った相手が窮地になると『神出鬼没』のライセンスを取得する。

というわけで本作のネギの双子の兄弟役で出ました。レイさんです。ちなみにあえて言うならレイが兄になります。ちなみに彼はレイさんの魔力で編まれた存在なのでネギのような属性に特化しませんでした。



ただ敢えて属性にするなら  
属性：剣、盾

と、どこの正義の味方に似てしまった。

華麗なる三連続コンボ！？（前書き）

さあてクラス合流

華麗なる三連続コンボ！？

ネギ

「何ですか、あの人は。」

しずな

「ウフフ……あの子はいつも元気だからね。でもいい子よ。」

レイ

「まあ現時点だと限りなくネギとは合わない性格かもしれないね」

ネギ

「レイはそうやって他人事みたいに……」

レイ

「あはは」

ネギ

「ほら、また笑ってごまかそうとしてるし」

しずな

「ハイ、これクラス名簿二人分ね」

そうしてから、しずなはまた声をかける

しずな

「それより授業の方は大丈夫なの？ネギ君。レイ君。」

「とはいっても最初は英語だけ。レイ君は見学みただけだね」と  
しずな先生は付け加えた。

そして案内されたのは

しずな

「ほら、ここが貴方達のクラスよ。」

中を覗いたあと

二人はクラス名簿を見た。

見た瞬間二人とも

「うわいつぱい」

と思ったのはいうまでもないが

しずな

「早くみんなの顔と名前覚えられるといいわね。」

ネギ

「あつう」

レイ

「頑張れネギ」

しずな

「貴方もよ、レイ君」

レイ

「いえ、もう覚えましたから」

しずな

「……………えっ？」

ネギ

「いいよね、レイって記憶力がすごくて」

レイ

「まあなんて返答したらいいのかわからないんだけど……………とりえあ  
ず緊張はしてきたんだけど」

そしてレイは上をみてネギをみて

一歩さがる

ネギ

「失礼しま……………」

ドアを開けると上から黒板消しが落ちてきたが

ネギの頭上で一時停止

それを見たレイは……

レイ

「（おいバカツ 障壁解除しておけていったのに！！）」

心の底からそう心配したのだけど

アスナ

「!？」

約一名にバレたっぽい

ネギも気付いた

ネギ

「（あ……やば……これは有名な黒板消しトラップ……日本にもあ

るんだ。」

あわてて障壁をけして

頭上につけて

無駄っぽい演技をしたのち再び歩き出すが……

華麗なる三連続コンボを喰らって凄い涙目になったネギ。

多分黒板消し以降にトラップがあるとは思ってなかったが故である  
う。

クラスは笑う

しずな先生も笑う。

でクラスは気付いた

クラス

「エー子供!？」

「ごめん新任の先生かと思って……」



そこにレイが……

レイ

「ネギ観察力なさすぎ。」

笑顔でいって

ネギがレイに「気をつけます」というところで、しずな先生が

しずな

「いいえ、その子。厳密に言つとそこの子も含めて貴方達の新しい先生達よ！さ、自己紹介してもらおうかしら！  
ネギ君、レイ君。」

ネギ

「ええと……あ……あの……ボク……ボク……」

今日からこの学校でまほ……英語を教える事になりました。  
ネギ・スプリングフィールドです。

3学期の間だけですけどよろしくお願いします。」

レイ

「えつと取り合えず、トラップは無しの方向で。  
今日からこの学校で数学を教える事になりました。  
レイ・スプリングフィールドです。」

3学期の間だけにはなりますが、よろしくお願いします。」

しーん

そして

クラス

「「「「「かわいいいいー」」」」」

なだれのようにクラスの人が押し寄せてきた

桜子

「何歳なの〜!?!?」

ネギ

「えっつ！？その10歳で…」

朝倉

「どっから来たの！？何人！？」

ネギ

「ウエ……ウエールズの山奥の……」

クラスの一人

「ウエールズってどこ？」

クラスの一人

「今どこに住んでるの！？」

とかなんやかんやネギが質問攻めに合つてるとき……

レイはとりえあず避難していた。性格には窓際一番先頭の机を見ていた。

まるで見えているかのよう……

レイ

「（成る程……彼女はえつととよさんか……）」

しずか〜にみていた。

こごぞとばかりに気配を断ち切って全てをネギに押し付けて

千雨

「マジなんですか？」

しずな

「ええマジです。」

で、ネギがもみくちやにされたりアスナに問い詰められているとき  
レイはというつと

レイ

「気持ち良いですねっ。さよさん」

さよ

「（えっ……）」

レイ

「大丈夫です。僕には貴方が見えているだけですから。」

さよ

「えっと思えてるんですか？」

レイ

「はい、ちょっと体質なのかもしれないんですけどね。」

その笑顔にさよが赤くなったのは言うまでも無く

レイ

「では後ほど再び語りましょう？貴方とは気が合いそうだ。」

そっつい「強化開始」と呟いて

取っ組み合っているアスナといいんちよを引き離しにいった。

## 華麗なる三連続コンボ！？（後書き）

（オリキャラ紹介）

名前：カオス・R・K・エルナード

性別：男

容姿：金髪短髪、ふちの少ない眼鏡に両目は赤い色。

性格：レイと違い、信頼する対象のみを守り、それ以外は無意味なものとは切り捨てられる。なのである意味では優しい。

詳細：レイの親友にして『空間』の能力（というか属性）を保有しており、他にも放出系魔法は大抵無詠唱で使える、ある種の変態。普段の笑顔ならまだしも、黒い笑顔をしていた時は何かしら企んでいる時である。

というわけでカオスさんです。

私のサイトでは

使い勝手のよさNo.1とされた程の存在で、凄まじい利便性の高さから、別の小説サイトの合同小説イベントにて、

『宇宙人、未来人、異世界人、超能力者、カオス』

は使用禁止とされたほど。

あ、もちろん、この時禁止されたカオスはただの人間なのに…です。

.



## 良い友を見つけた

少し戻って…

アスナ

「委員長、何いい子ぶってんのよあんだ！」

あやか

「あら…いい子なんだからいい子に見えてしまつのは当然でしょ？」

アスナ

「何がいい子よ…このシヨタコン！」

あやか

「なつ言いがかりはおやめなさい！あんだなんかオヤジ趣味のくせにい！！知ってるのよ、あなた高畑先生のこと……」

アスナ

「うぎゃーその先をいうんじゃないねーこの女……」

ネギ

「（あわわ喧嘩だ。大変だ……ここは先生として……）」

ガシッ

取っ組み合いを抑えたレイ

レイ

「やれやれ……お二人とも女性なのですから。取っ組み合いなど野蛮な事はやめましょう？  
お願いします。」

こうしてなんとか鎮圧に成功した。

そして

パンパン！

しずな

「はいはい、みんな時間も押ししてるし授業しますよ！ネギ先生お願いします。レイ先生は……って……アレ？」

ふとレイを探すが見当たらないとおもったら……

窓際一番前のさよの目の前で、のんびりしていた。

しずな

「レイ先生は見学になりますので」

ネギ&レイ

「はい！」

で、ネギはいろいろな頑張りながら遠距離よりアスナから攻撃を受けながら

授業をしていたが

レイはというと見学そっちのけでいつのまにか横にきたさよと語ら  
っていた

結果、授業はふたたびアスナと委員長の喧嘩で終わった。

タカミチ

「ネギ先生、レイ先生。初授業はどうでしたか？」

レイ

「良い友を見つけた。」

ネギ

「それが大変でさ、あまり…わっ」

突撃者はアスナ

アスナ

「た、高畑先生こんにちは！あたしがついてるから大丈夫ですよ！初授業も大成功だったんですよね！ねっネギ先生！」

タカミチ

「ほほう、そりゃあよかった。ありがとう。アスナ君。じゃあネギ君たちのこと頼んだよ！」

アスナ

「あ、は、はい。高畑先生……」

高畑先生は去った

レイ

「タカミチの事がすきなのか……」

ネギ

「タカミチの事好きなんだ」

アスナ

「うるわいわね。大体なんであんなたちが高畑先生の知り合いなのよ。言つとくけどあんな達の面倒なんてみないわよ。」

「あんなたちみたいな奴が先生だなんて絶対めないんだから」

そっかしいアスナとこのかはさった。

.

## 良い友を見つけた（後書き）

（オリキャラ紹介）

名前：ラプラスの魔

性別：男

容姿：黒髪ショートの黒目にネギみたいな眼鏡をつけてる。

性格：意味不明な事をたまにだが突然言い出す変人。

詳細：レイの、というよりはカオスの旧友。

『運命』の能力（属性）持ちであり、他に魔法は使えたりはするけど、『運命』は常時展開の魔法の為に魔力が常に垂れ流しという悪循環。

はい、ラプラスさんです

薔薇乙女の白崎さんを思い浮かべるかラプラスの魔で想像するといいかもしれません。

## 魔法がバレた日

で、今レイはネギと別行動中。

いや、念話をネギから聞いたときレイは……

レイ

「やっぱりアホか」

と呟いたそうなの

で、レイは現在屋上でさよと語り合っていた。

さよ

「あ、そういえば今日教室で何かやられるみたいですよっ。」



レイ

「成る程ね。じゃあさよさん、一緒に行きましょう」

さよ

「は、はい」

知らないうちに仲良しになった二人

で、ちょうどネギが教室にはいった後だった。

とりあえず主役という事で二人は真ん中に連れて行かれた。さよともとりあえず分かれる事に

なにやら騒いでいたら

ネギとアスナが廊下へ去っていった。

レイは……

やられたと思った。

確かに現状ネギの問題はそっちだったが……これで集中砲火は自分へくるし……

はあ

レイは深い溜息をついてそれぞれの対処にあたることにした

……

その帰り

アスナ

「……はあ本当にひどい目にあつた……全部あんた（ネギ）のせいよー！」

ネギ

「今のは自業自得な気もしますが……」

アスナ

「なんですって。大体君ね。ちょっと頭がよくて魔法だかなんだか

使えるのかもしれないけどさ。中身は全然ただのガキじゃない。そんなんでホントにこれからここで先生なんてやっつくつもり？それとレイ、あんたもよ」

突然話を振られてレイもあせった。

無論ネギが騒いでたあのとときにネギとレイが魔法が使えることはアスナにはばれている

ネギは落ち込むがレイは「なせばなる、なさねばならぬ、何事も…  
…ですよ？アスナさん」  
とはぐらかしたわけだが……

このか

「アスナ」

アスナ

「さて帰ろっか」

ネギ

「あ、はいっ」

アスナ

「ってあんた達泊まるどころ決まってるだけ？」

ネギ

「いえっその……………」

アスナ

「いいよきても。」

まっ…………さっきの言葉はちよつとぐつときたかな。このままがんばればアンタたちもいつかはいい先生になれるかもね。」

ネギ

「あ…………うん！ありがと！」

そこでレイが

レイ

「失礼アスナさん。せつかくのお誘いですが…………。僕はちよつと泊まるどころが…………」

アスナ

「え？決まってるのもしかして？」

レイ

「いえ、まあそんなところかなあっと……」

というところでネギはアスナとともに帰った……

1人になったレイは

レイ

「さあてと始めますか。本格的に……」

そう呟くと歩き始めて……

そして一つの建物に来た。

それは昔タカミチよりもらったものである。

もしも日本に来たときは……  
まあ日本に来るのが些か早すぎたのだからっけど……

レイは中へ入る。

実はレイは魔法があまり得意ではない。  
とくに放出系魔法はからっきしである。

だが、肉弾戦は得意であった。

まあそれはおいといて

レイはこの部屋を清掃。  
清掃終了後

あらゆる物品をそろえて

そして

レイダコを始めた。

ちなみにこのお店は子供先生がやるタコヤキ屋と広く有名になり、  
ごくたまに学園長がやってくる時があるのは  
また別のお話。

## 魔法がバレた日（後書き）

一時的にオリキャラ紹介をおいといて

レイダコについて

レイダコはレイが日本に興味を持った結果、たこ焼きにおおハマリし、作ってみたら、売れるレベルが作れるようになった結果、生まれたようなお店。

ちなみにレイ本体たこ焼きを作れる。無論年季が違つので、比べたら確実にレイ本体が勝つたりします。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8789y/>

---

ネギま！～時の欠片～

2011年11月26日23時56分発行